

山本謙一 [アウラ賞]

森田郷士 (体育館/やまなみ工房)

昨年、森田さんのこのシリーズの作品がフェアにあり、ドネーションさせていただいた。今回、またこのシリーズがフェアに登場し、改めて作品の表現強度に惹かれた。作品タイトルは「点と線」と抽象的だがこの作品のサブタイトルを敢えてつけるとするなら【それでも尚、私は可能性に生きてる!】だろうか。生きていく中で色々な事にまみれながらも、レインボーカラーなマインドを忘れず、大きく包み込むような表姿とも、明日に賭けるような後ろ姿ともつかない、詩的デフォルメ身体からほとぼしる一人の人物の、太々(ふてぶて)しいまでの力強いドローイング表現は、彼しかできない独自の優れたアウラ表現作品として結実していた。

リンダ・デニス [デニス アワード]

スクリプカリウ落合安奈 (メインギャラリー)

亀山晴美 (体育館/東北芸術工科大学)

匿名 [01 賞]

山田ひかる (体育館/武蔵野美術大学)

一度見たら忘れる事の出来ない独自の木版のタッチに惹かれた。物語や身近のニュースを再構成して、ユニークな光景をつくり込んでいる。